＜広聴会＞

みんなの声を村政に

会場は熱心にメモする姿

〝みんなの声を村政に〟これからの地方自治は住民のための住民の手による村政といわれているが、私達の声を村政に反映すべく、広聴会が三月二十四日、午後一時三十分より岩室役場会議室に於て村長、各課長出席、聴衆八十名を集め開らかれた。

これは岩室村連合青年団主催、公民館の協力を得て開催されたもので、横山村長施政方針の重点施政の一つとして『村民の生の声を村政に反映させ陰げ陽なたのない平等な明るく健康で豊かな村づくりを推進するに呼応して開かれたもの。意見発表者は十一人で、広く各年令層、境遇の人たちより選出された。

五十嵐徳松さん（橋本）が村づくりは、人づくりにつながることを強調して訴え、教育設備の充実と貧富の差にかかわらず平等な教育を受ける権利があるとして、奨学金制度を設定してはどうか、又最近の新聞紙上を賑わしている、水死事故を取り上げ、これから生きて行くためにも護身術として水泳のできる人の育成をする。プールを建設して学校及び村民に開放し全村民皆水泳対策を希望していた。これに対して、村当局は現在検討中で、早急に実現できるよう推進することを確約していた。

続いて母子家庭を暖い目で見守ってほしいと題して小島ヨキさん（石瀬）が、母子家庭を代表して、家庭の現状を訴えた。母子家庭の片親にも負けず学業成績も優秀で人物も明るく、朗証していた。その子も結果を期待していた。結果は暗かった。その子は大きな声で絶叫した。

『何故片親は就職できないんだい……』この問題は村の金銭的援助で解決できる問題ではないでしょう。

村民一人一人の暖い気持が必要であろう。私たちも充分考えて見る必要があることと思われる。

今年、成人式を迎えた浅田美智枝さん（金池）が、農業後継者が年々減少する。対策として、若い後継者に希望の持てるような村独自の政策を強力におし進めていただきたい……二十才と思えない態度で希望を述べていた。

聴衆もこの小さな声がいつか村政に寄与するものと拍手を送っていた。稲作の裏作として畜産振興を計るべきだと。樋口多禄さん（北野）稲増産対策として、産業基盤整備の推進を図ってもらいたい。山上佐一郎さん（夏井）これらの農業基盤その他広い各分野政策の推進については、企画課を新設し『総合開発特別委員会を設置して検討し実現するよう努力する』と村長が発表した。

この構想によると、「委員は二十五才から五十才位の村民の無位無官の人達の自由な声を集積しその声をもとに細部に至って研究する。その際充分に高年令層の貴重な意見も取り入れる。この計画によると、充分な村民の声が村政に反映されるものと期待されて聴衆もうなづいていた。

現在の地方自治の直面している財政難問題に対しての広域行政について活ばつな意見が出された。この時聴衆の老人が『私の行く共同火葬場はどうなっているのかの質問に』『当局はもう着工の段階になっている』の答弁に『それを聞いて安心した』……の言葉とその喜びの表情で会場は爆笑のうずに囲まれた（岩室村、巻町の二町村で経費を出し合い共同で火葬場を建設計画中）

社会情勢の急変による、出稼問題について、篠原末子さん（間瀬）が役場に就労相談所の充実、又家に居てもできる、内職の斡旋をしていただきたい。これらの私達の生活に直に結びついた問題が関心を持って聴かれていた。聴衆の中にはほとんどの人が熱心にメモしている姿が見られた。しかしまだまだ参加者が不足だと思われる。私達の手による私達の村政を……

もっと村政に対する自覚とめざめが要求される。それが私達の村を発展する原動力となるであろう。

拍手を送ろう――青年団の広聴会開催の行為に対して――

私は今年新成人として成人式に参列し、青年は次代村も一段と発展するものと信じて、います。その反面私達青年も自分達みんなが協力し合って、村を築くのいただきその責任を痛感致しました。と同時に大きな不安も禁じ得ませんでした。近年社会構造の変化に伴い青年人口の大幅な移動が行なわれており、私達の岩室村も例外ではありません。今年中学卒業者二一四名中農業に従事する人は五名位しかありません。これらの数を考えるとき、青年学級の前途にも暗雲がたちこめている現状です。このことは単に青年学級生私達のみの問題とばかりでなく、村の将来にかかわる大きな研究課題ではないでしょうか。三割自治の財政困難な現状ではありますが、ことの重大さを認識下さって青年に夢と希望を与え、後継者としての自信と誇りを持って村に残れるより研究し配慮いただけるならば村も一段と発展するものと信じて、います。その反面私達青年も自分達みんなが協力し合って、村を築くのだとゆう気がまえも必要だと思います。

みんなの広場

後継者の育成に暖い手を

私がいま頭の中でビジョンを考えていることは、一、私達が自信を持って実施できる。他町村に負けない重点的農業政策の確立例　吉田町のどじょう、巻町の果樹振興政策等

二、体育レクリエーションの場所がない。研修場所が少ない。

三、後継者グループに対する育成が必要。

もっと充実した活動が出来るよう、指導及び財政的援助をお願いしたい。

四、先進地研修、県外の農業青年との交換研修等後継者の学習に対してはもっと財政的援助をお願いする。

五、私達がもっと利用しやすいような役場内の行政機構を改めてもらいたい。

いずれも財政の伴う事業のことゆえ急には出きかねるかと思いますが、私達が喜んで村に残り、自信を持って農業にいそしめるような血のかよった村政を切に希望する。

（広聴会意見発表より）

役場職務分掌

昭和43・4・1

課名	課長	係長	課員
総務課	金子誠一	阿部茂	本間文男　柏木金一　桑原照江　斎藤勢津子　池上ハツイ
		竹内正栄	池上利雄　山上忠松　坂下ミネ三　富三郎
会計室		鷲沢一秋	田中千久代
企画課	和田昇	小林強	山田豊昭　後藤勉
住民課	竹内晴吉	小野光弘	菅井憧　清水良子　真島彰夫　堀越栄子　高山立子
		近藤秀信	星野由美子
社会福祉課	山上忠雄	星野徳一	竹内知恵　後藤哲加　藤清佐　藤奈々生　小林友子
税務課	佐藤厳	樋浦昭二	後藤昇二　海津ユリ子　池上昇　大久保直樹　田中惣二
			竹内弥生　山上光男
農政課	鷲沢赳弥	吉井東七郎	本間兵治　鈴木喜久男　石崎文二　田中信雄　坂田久雄
		星野一栄	高村フサ
開発課	後藤金芳	山上一六	川正二　今井美恵　佐藤忠義　石倉勉　田中勝美
		早川徹	皆月秀夫　岡
水道課	大関吉次	福田和雄	小林武運一　沖野一　鬼木勝美　上田幸弘
間瀬支所	荒川藤雄		東条守二　辰島フヂノ
教育委員会	教育長兼公民館長 大岩修作	金子貢	池ハナ　竹野啓子　石添義克
		小池丈夫	
議会	大越幸栄		
和納保育所	所長 高島幸雄 助役兼務	藤原利江	高橋さえ子　佐藤昭子　草野フミ子　大関貞子（臨）　小林チヨ子（臨）
あづま保育所		陶山奈々	大森行栄（臨）
西保育所		草野千枝	長岡君代　星井康子　吹井敏子（臨）　岡崎とし　金子きくよ（臨）
間瀬保育所	所長 荒川藤雄（兼）	住吉順子	五十嵐紀美子（臨）
岩室季節保育所	所長 上村大心	上村光子	竹内一子（臨）

退職　鈴木角一（岩小用務員）　堀沢基（岩小用務員）　任期満了　桑原正（教育長）　退職　草野良子（岩中給食）　新採用　石倉勉　池上ハツイ　草野フミ子